

# 豊明市薬師ヶ根遺跡

## 地元説明会資料

(改訂版)

平成18年9月16日(土) 午前11時から



主 催 (財) 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

支 援 株式会社アーキジオ

## 1. はじめに

薬師ヶ根遺跡は沓掛町薬師ヶ根、県道57号線瀬戸大府線明和交差点付近に存在する遺跡です。県道阿野名古屋線改良工事を行うのに先立ち、工事予定地内に遺構がどの程度残っているか、どこまで広がっているかを確認するための調査が、平成9年2月に豊明市教育委員会によって行われました。その結果、溝・柱穴・窯の灰原等の遺構、古代の須恵器・灰釉陶器、中世の山茶碗・陶器の破片などの遺物が見つかり、この辺り一帯に遺跡が存在することが明らかになりました。

今回二つの道路の接続部分での工事に先立ち、約800mの範囲で発掘調査を行うことになりました。平成18年8月3日から調査を行っており、現在までのところ古代・中世の遺構・遺物が発見されています。発掘調査は9月末まで行う予定です。

## 2. 薬師ヶ根遺跡ってどんな所

薬師ヶ根遺跡は豊明市の西部にあり、西側約1.3kmの位置を尾張と三河の国境となっていた境川が流れています。古くから豊明市内を通る交通路があり、古代の東海道のルートは、はっきりとは分かっていませんが、役人が宿泊したり、馬を乗り継ぐための駅が尾張国内には3箇所（馬津駅・新溝駅・両村駅）置かれており、この内の一つ両村駅を二村山付近とする説があります。また、薬師ヶ根遺跡の北西約400mの場所にある行者堂遺跡で奈良時代の瓦が見つかっており、この場所を駅とする説もありますが、寺院跡と考える人もいます。いずれにしても本遺跡の周辺が古代において重要な場所であったことが推定されます。鎌倉時代には京都から熱田・美濃を経由して鎌倉へと通じる鎌倉街道が二村山から十王堂・十三塚・大久伝を通り境川の渡しを越して三河へと通じていたと推定されており、本遺跡はこの街道から1kmほど北西に位置します。

また、遺跡の周辺には中世の山茶碗を焼いた窯跡が多く見られ、道路を挟んだ向かい側にあった下高根中世一・二・三号窯遺跡は13世紀前半に操業されたと考えられています。また、遺跡の北東約700mの位置には、14世紀頃近藤宗光が建てたとされる沓掛城があり、これらの事から中世においても、この地が人々の生産や生活の場であったと考えられます。

### 用語の説明

遺跡・・・・・・昔の村の跡や城跡などの場所。

遺構・・・・・・住居の跡やお墓など地面に残された昔の生活の痕跡。遺構が集まって遺跡となる

遺物・・・・・・昔の人が使った道具など。地面から切り離して動かせるもの。

灰原・・・・・・やきものを窯で焼いた際に失敗した製品や窯の中から掻き出した灰等を捨てた所

須恵器・・・・古墳時代から平安時代にかけて窯で焼かれたうわぐすりを掛けない器。

灰釉陶器・・・植物を焼いた灰を掛けて窯で焼いた器。9世紀頃から作られ始めた。

山茶碗・・・平安時代末から室町時代にかけて東海地方で生産されたうわぐすりを掛けない陶器

## 薬師ヶ根遺跡 位置図





3 北宋銭（中国の古銭）  
竪穴建物跡（室町時代）から出土



2 溝（下層は古代、上層は室町時代か）  
東西に伸び、井戸のところで南に曲がります



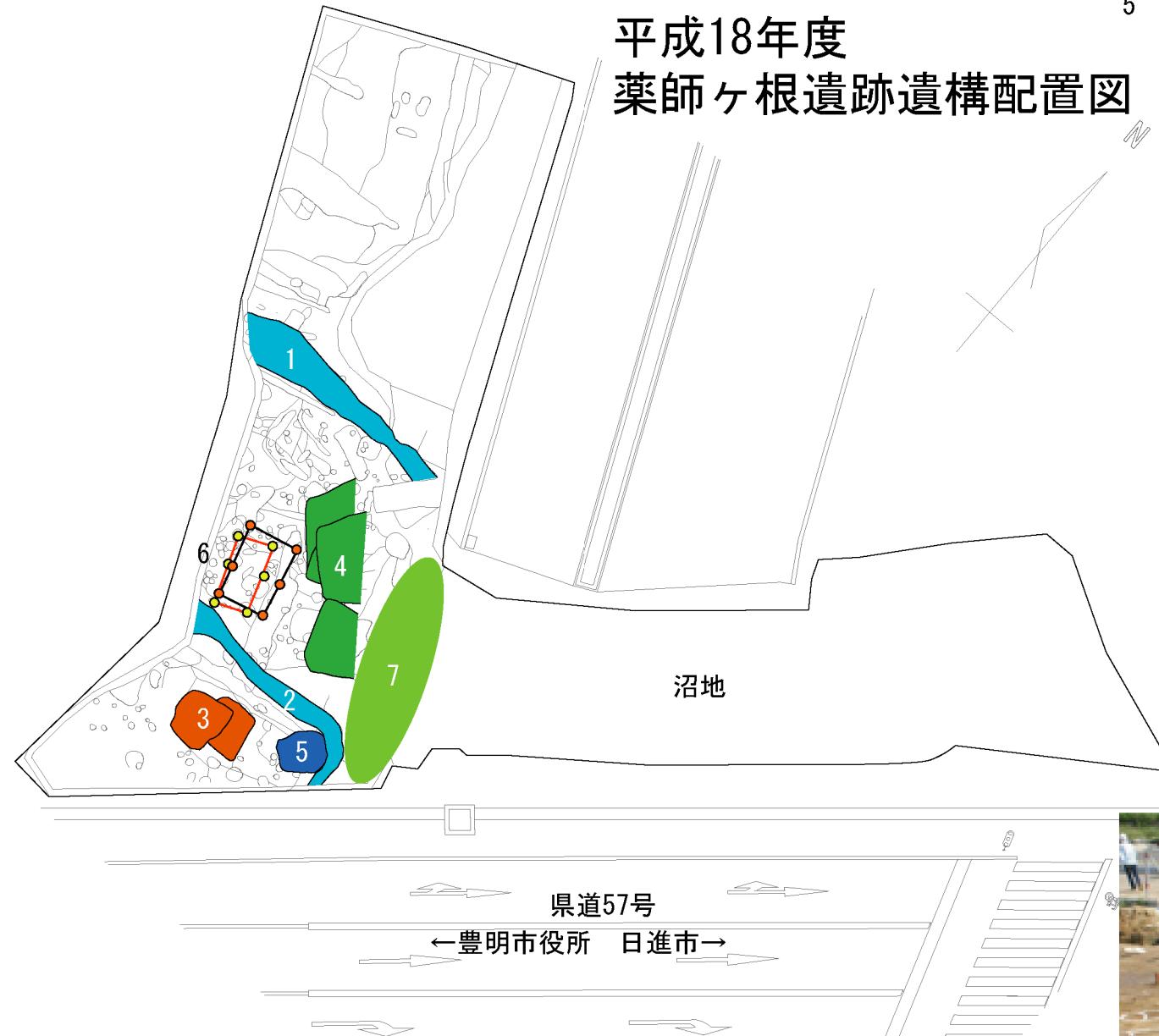
5 井戸（室町時代～）  
掘削途中でまだまだ下に続きます



7 大量に出土した須恵器（奈良時代後半）  
蓋、杯、盤、水瓶、壺などがあります。  
わずかに窯道具がありますが、焼き歪んだものではなく、窯の灰原とは様相が異なります。窯から取り出されたものを集荷し、選別後に廃棄した場所であった可能性が考えられます。



5 須恵器こね鉢（奈良時代後半）井戸から出土



4 竪穴建物跡（平安時代）  
似た場所に何度もつくられています。

6 掘立柱建物跡（中世）  
確認されたピットから一部を想定しました。これ以外にも多数のピットが確認されていますので、もっと多くの建物があったと推定されます。



3 竪穴建物跡（室町時代、2棟が重複）  
北宋銭や鐵滓が出土しました。作業場と考えられます



1 溝状遺構（室町時代～）

### 3. 調査で見つかったもの

発掘調査の結果、見つかった遺構は、古代・中世の溝、中世の竪穴建物跡、井戸等です。溝は多数見つかっていますが、調査区の南側にある大溝は、上方の層から室町時代の陶器等、下の方の層から古代の須恵器等の遺物が出ており、古代の溝と推定されます。南東から北西に向かって走っている崖からは古代の須恵器が多数出ており、これらの中には窯の中で融けてくついたと思われるものも若干ですがみられます。しかし窯や灰原出土する激しい変形や融着のあるものはありませんでした。また、同時に山茶碗も出土したことから、中世以降にもとの場所からさらに移動したと考えられます。

竪穴建物は、大溝の南東にある四角の掘り込みで、床面近くから鉄滓（てつさい）が見つかった他、須恵器・山茶碗・陶器などが出ています。中世の遺構と考えられます。

井戸は調査区の南東端付近にあり、円形をしています。その他に竪穴住居、多数の土坑が見つかっています。

#### 用語の説明

竪穴住居・・・地面を掘り込んだ中に柱を立て、ワラやカヤで屋根を葺いた昔の住居。

鉄滓・・・・製鉄などを行った際に出る不純物など。カナクソ。

# あいち考古学年表

年代	時代		主なできごと	愛知県のできごと	現場
35000年前	原始	旧石器時代	中期 後期	台形様石器・ナイフ形石器 局部磨製石斧の出現	
13000年前			草創期	土器の発明	
6000年前		縄文時代	早期 前期	貝塚の形成 気候の温暖化による海進	
5000年前			中期		埋甕の出現 (朝日遺跡など)
4000年前			後期	寒冷化し、海進した低地でも生活が始まる	
3000年前		弥生時代	晩期		土器棺墓群が形成される
2500年前			前期	稲作の開始 金属器の使用開始	環濠集落の出現
紀元元年			中期 後期		女王卑弥呼が邪馬台国を統治する
300年前		古墳時代	前期	ヤマト政権の成立 各地に豪族が出現	
			中期	倭の五王が中国に使いを送る	東山丘陵などで須恵器の生産が開始される
			後期		
538年	古代	飛鳥時代			
552年				仏教の伝来	
645年				大化の改新	各地に寺院が造られる
694年				藤原京の造営	東海道などの官道と駅家などが整備される
710年		奈良時代		平城京遷都	
743年				大仏建立の詔	国府が設置される 国分寺・国分尼寺が造られる
794年		平安時代		平安京遷都	
800年					猿投山南西地域を中心とする 灰釉陶器生産の開始
					渥美・常滑・瀬戸で窯業生産の開始
1192年	中世	鎌倉時代		源頼朝が鎌倉に幕府を開く	
1221年				承久の乱	
				元寇（文永・弘安の役）	山茶碗生産の最盛期
1334年		南北朝期		建武の新政	
1338年				足利尊氏が京都に幕府を開く 南北朝の動乱（～1392年）	
1467年		室町時代		応仁の乱（～1477年）	
1500年					この頃沓掛城が造られる
1576年		戦国期		織田信長が安土城を築城	1560年5月19日 桶狭間の戦い
1590年				豊臣秀吉が天下統一	
1600年				関ヶ原の合戦	
1603年	近世	江戸時代		徳川家康が江戸に幕府を開く	
				享保の改革 寛政の改革 天保の改革	1610年 名古屋城下町の整備
				大政奉還	瀬戸で磁器生産が開始される
1867年		明治時代		明治維新	
1868年	近現代	大正時代			
		昭和時代		第2次世界大戦（～1945年）	
1939年		平成時代			

薬師  
ケ根  
遺跡

# 遺跡発掘作業の工程



調査計画を立てたくさん悩みます



建設機械で遺構面まで取り除きます



遺構が確認された位置を白線で明示します



遺構掘削状況です丁寧に掘り上ます



遺構の形状を測り図面を作成します



出土した遺物を接合します



出土した土器や陶器を洗浄します



報告書作成

遺物の実測をし報告書に記載します

※ 報告書は愛知県埋蔵文化財センターのホームページ <http://www.maibun.com/> にてダウンロードできます。